

2020 年度事業報告書

(2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人フードバンク京都

フードバンク京都は、2021年3月31日をもって第3期の事業年度を終了することが出来ました。無事、年度末を迎えることが出来ましたのも皆様の暖かいご支援によるものと深く感謝申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の大拡大で暮らしをめぐる困難が深刻化し、私たちの活動を取り巻く環境も、子ども食堂の活動が制限されたり緊急支援の要請の急増など大きく変化しました。

また、「食品ロス削減推進法」の施行や、国連の持続可能な社会の実現を目指す SDG s 等でフードバンク活動への関心は高まってきています。

そのような中で「もったいないからありがとうへ」を合言葉に、今年度取り組んできた重点課題の成果を報告いたします。

I 本年度の重点課題についての成果

◆【食品の回収量を増やします】の目標について

新型コロナウイルス感染症の拡大で、各種行事が中止になる等フードドライブは実施しにくい状況になりましたが、ダイエーグループでは新たにスーパー光洋の4店舗での実施が始まりました。また、学級閉鎖などで中止になった給食の食材や、JA 京都市からは即売が中止になった品評会の大量の野菜の提供があり、連携しているフードバンク長岡京などとも分け合いました。

例年は不足するお米も、チラシによる広報の効果やコロナ禍での暮らしの厳しさへの共助の意識の高まり等で、個人からの提供が大きく増えたのも特徴です。

懸案であったパンはコープ自然派京都からの食パンと、専門店からのベーグルの提供が実現し、その品質の高さからも支援先から大変喜ばれています。

全体として回収量は増大し、社会福祉施設や子ども食堂などへの定期支援に加え、急増した行政機関などからの緊急支援要請にも応えることが出来ました。

支援食糧の重量は 19,785 キロで前年度から 2,5 倍に増えました（社会福祉施設や子ども食堂など団体への支援が 16,260 キロ、行政機関などからの要請に基づく個人への支援が 3,525 キロ）。

◆【広報活動を強化します】の目標について

京都市の助成金を受けて実施した京都リビングへの約 5 万枚の折込チラシ配布は、新たなフードドライブやボランティアの参加などの効果をもたらしました。

啓発活動や出前講演にも積極的に取り組みました。FM87.0、NHK などの放送局の他、京

都インターナショナルスクール、近畿大学、金光大阪中学校・高等学校、立命館高校、立命館宇治高校、山梨南アルプス子ども村中学校など、オンラインでの取材や遠方からの来訪もあり、フードドライブの実施やビデオ制作など、未来を担う世代が強い関心を示してくれたのは嬉しいことです。

新たに開設したホームページの英語版は、その効果が表れています。

広報誌「もったいないからありがとうへ」は当法人の活動を知らせる重要な媒体ですが、第4号の1回しか発行できませんでした。

❖【他団体との連携を進めます】の目標について

イベントや情報交換会は開催が少なかったので、その機会は限られましたが京都大学の安里和晃ゼミを通じての外国人の方への支援や、向日市地域福祉計画策定推進委員会などに参加しました。

また、緊急支援で繋がった社会福祉協議会でのフードドライブの実施や、継続的に交流を続けてきた京都インターナショナルスクールが賛助会員になってくれるなどの成果も生まれました。

「全国フードバンク推進協議会」への加盟は、今年度は見送りました。

❖【自主農園での生産活動を発展させます】の目標について

有機農法の専門家の指導を受けて、土づくりから始めた農薬や化学肥料を使用しない自主農園は、栽培品目も増え品質も向上し支援先から大変好評を得ています。

また、農園でのボランティア体験をした方が支援食糧の仕分けや配送担当するスタッフに加わってくれました。私達の特徴ある事業は大きな成果を生んでいます。

施設の充実を目指しましたが、環境型トイレの設置や水道の敷設などは土質や費用面で実現できず、電源の確保もできませんでした。

❖【組織基盤の強化を図ります】の目標について

スタッフは、正社員23名とボランティアを含め30名を超える体制になったことは大きな成果です。それぞれの特技を活かした役割分担で活動の幅も広がりました。

財政面は、「京都市の食品ロス削減の取組に対する支援助成金」が当法人の取り組みを支えてくれており、今年度初めて啓発チラシの新聞折り込みが実施できました。

寄付金を増やすために、ゆうちょ銀行（記号：14450 番号：43891781 トクレ）フードバンクキョウト）に次いで、クレジットカードによる寄付の窓口（Syncable シンカブル）も開設しました。

個人が中心でまだまだ少ないですが、着実に増えてきています。

新型コロナウイルスの拡大の終息は見通せませんが、国連の持続可能な社会の実現を目指すSDGsの「だれひとり取り残さない」の理念にも沿って、今後もスタッフ全員で力を合わせて、精一杯の活動を続けてまいります。皆様の暖かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。